

研究主題

運動を楽しみ、自他とつながりながら主体的に学ぶ子供の育成
～主体的な学びを引き出す指導の工夫と授業改善～

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

近年、子供たちを取り巻く社会環境は大きく変化しており、体を動かす機会の減少や人との関わりの希薄化、自己肯定感の低下といった課題が指摘されている。全国体力・運動能力、運動週間等調査の結果からも、子供の体力や運動習慣の地域差・個人差が明らかとなっており、心身の健やかな発達を支える体育の役割が、今まで以上に重要視されている。一方、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、体育においても、技能の習得にとどまらず、進んで運動に取り組む態度や、仲間と協力しながら学び合う姿勢の育成が強く求められている。

このような社会的要請を踏まえ、体育を通して、子供が運動の楽しさや達成感を味わい、自己を見つめたり、他者とかかわったりしながら、主体的に学び続ける力を育てたいと考え、本主題を設定することにした。

(2) 学習指導要領から

体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

学習指導要領（平成29年告示）より

本主題は、この目標の実現を目指すものである。目標を「心と体を一体として捉える」「課題を見付け解決する力を育てる」「生涯にわたって健康で楽しい生活を送る土台をつくる」、この3つの視点で捉え、「運動を楽しむ」ことを中心に据えつつ、自己理解と他者との関わりの中で課題を見出し、課題解決に向けて学ぶ力を育てる過程を重視していきたいと考え、主題設定を行った。

(3) 県・市の動向から

鹿児島県は、令和3年度から10年間の計画で、学校・家庭・地域が連携して「運動好きな子どもを育てる」ことによって、生涯にわたって主体的に心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフ

を実現することができる児童生徒を育成することを目的に、子供の体力向上推進事業「運動大好き“かごしまっ子”育成推進事業」を展開している。

また、日置市では平成29年より、運動の楽しさを味わわせながら「運動好きな子供」を育て、児童生徒の体力の向上を図ることを目的として、学校体育の指導法改善と、「一家庭一運動」等における家庭との連携の取り組みを小・中一貫となっていく、「チェスト行けひおきっ子」事業を推進している。

本主題は、運動を楽しむことを出発点として、子供一人一人が自らの思いや考えを大切にしながら学びを深め、仲間とともに成長する姿の実現を目指すものであり、県や市の施策とも方向性を共有するものであると考える。

「運動大好き“かごしまっ子”育成推進事業」について （鹿児島県教育委員会）

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba06/kyoiku-bunka/sports/school/unndoudaisuki.html>

「チェストいけ、ひおきっ子」事業について （日置市教育委員会）

<https://www.city.hioki.kagoshima.jp/gakukyo/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/gakkokyoiku/kyoikuka.html>

(4) 学校教育目標から

本校の教育目標、「豊かな心をもち、確かな学力を身に付け、たくましく生きぬく児童の育成」を実現するうえで、体育科は大きな役割を担っている。運動を通して自分の体と心の変化に気づき、課題に向かって粘り強く取り組む態度や、仲間と関わる中で他者を尊重し共に取り組む姿勢を育てることができる。これは、「豊かな心」や「たくましく生きる力」と直結するものである。また、体育においても「主体的・対話的で深い学び」を追究し、「教えられる」から「自ら学ぶ」へ転換することで見られるであろう、児童が「なぜうまくいかないのか」「どうすればうまくできるのか」を考えながら取り組む姿は、「確かな学力（考える力）」を育む過程である。本主題は、学校教育目標がめざす「心・知・体」のバランスのとれた児童像を、体育の学びを通して実現することにつながると思う。

2 研究主題について

主題「運動を楽しむ、自他とつながりながら主体的に学ぶ子供の育成」については、「楽しむ」「つながる」をキーワードに、それぞれのキーワードを、それぞれ以下の3観点で捉え、設定した。

「楽しむ」の3観点

① 「わかる、できるようになる楽しさ」

→ 主体的な学びにつながる。技能の習得や成長実感を通じた喜びに直結し、学習の内発的動機づけに重要である。

② 「友達とつながる楽しさ」

→ 社会的側面（協力・共感・仲間意識）に根差していて、学級づくりや人間関係の形成にもつながる。体育特有の関わりの楽しさがある。

③ 「運動の心地よさを味わう楽しさ」

→ 感覚面（身体感覚・リズム・解放感等）へのアプローチ。体育の本質的な価値であり、継続的な運動習慣につながる。

〈運動の心地よさについて〉

要素	内容	具体例
① 身体感覚の快さ	自分の体を思い通りに動かせたときの満足感や調和感	鉄棒でスムーズに回れた／走るフォームが軽く感じた
② リズム・タイミングの一致	音や動きと自分の体がぴったり合ったときの快感	なわとびでテンポよく跳べた／ダンスで音楽に乗れた
③ 解放感	のびのびと体を動かしたときの開放的な気分	校庭を全力で走った／風を受けて思いきりジャンプした
④ 安心感や疲労感の心地よさ	緊張がほどけ、適度に体を使った後の「いい疲れ」	満足して「疲れたけど楽しかった」と感じる状態
⑤ 自分に合った挑戦での達成感	無理せず「ちょうどよい難しさ」の中で成功したとき	軽く汗をかいて「やれた」と思える内容だった

「つながる」の3観点

① 「相手とつながる」

→ 協働・対話・信頼など、他者との関係性を重視した視点。学級集団や社会性の育成につながる。

② 「学びがつながる」

→ 他教科や日常生活、学習前後の経験の連続性を意識させる視点。学習の汎用性を高めることにつながる。

③ 「心と体がつながる」

→ 心身の連携に気付き調整する力を育てる。自己調整力や自己理解、メタ認知的な気付きにつながる。

3 研究仮説について

主題に基づき、研究の仮説を以下のように設定した。

【仮説1】 運動の楽しさや達成感を味わえるような場の設定や指導の工夫をすることで、児童が意欲的に運動に取り組み、自ら課題を見つけ、その課題に挑戦しようとする姿が見られるようになるのではないかと。

主題の「運動を楽しむ」という視点において、児童が運動に対して前向きな気持ちを持ち、自ら取り組もうとするには、「楽しい」「できた」「もっとやりたい」と思えるような学習環境の工夫が不可欠である。また体育の授業では、得意・不得意の差が出やすく、成功体験が少ないと消極的になりやすいため、「達成感を得られる場面設定」は、子供の意欲を引き出す重要な要素であり、そうした場の中で、

子供が「次はこうしてみよう」「もっと上手になりたい」と自ら課題を見つける姿は、主題の「主体的に学ぶ」姿につながると考えられる。

【仮説2】 ペアやグループでの対話や助け合いを取り入れた学び合いの活動を工夫することで、児童は互いを認め合い、助言し合いながら、自らの課題に気づき、学びを深めるようになるのではないか。

見合ったり、教え合ったり、励まし合ったりといった身体を通じた関わりを意図的に授業に組み込むことで、子供が自分の動きに気づいたり、改善点を考えたりすることが期待できる。また、助け合い・認め合いの関係性は、安心して学びに向かう土台となり、自らの課題に気づき、挑戦する意欲、主体性を高める効果があると考えられる。このように、学び合いの活動を通じて、子供が自分の学びを深めていく姿は、主題の「主体的に学ぶ」姿につながると考える。

4 めざす子供の姿・研究の視点

主題及び仮説を基に以下のように、めざす子供の姿・研究の視点を設定した。

(1) めざす子供の姿

- ① 体を動かすことに喜びを感じ、自己の課題に向かって挑戦しようとする子供
運動の楽しさを実感することは、子供の学びへの意欲や継続的な取り組みを支える原動力である。楽しさの実感を基盤に、自己の課題に向かって主体的に挑戦する姿勢を育成する。
- ② 仲間と協力したり助け合ったりする中で、互いのよさを認め合い、共に成長しようとする子供
体育は、他者とのかかわりの中で人間関係を育む重要な場である。協同的な活動を通して、子供たちが、互いの違いやよさを認めることを学び、思いやりや責任感を育むことができるようにする。
- ③ 目的やめあてを意識し、自分の学びを振り返りながら、次の運動につなげる力をもつ子供
「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、自ら目的を持って活動に取り組み、その過程をふりかえり、次に生かそうとする姿勢を育て、「教えられる体育」から「自ら学ぶ体育」への転換を図る。

(2) 研究の視点

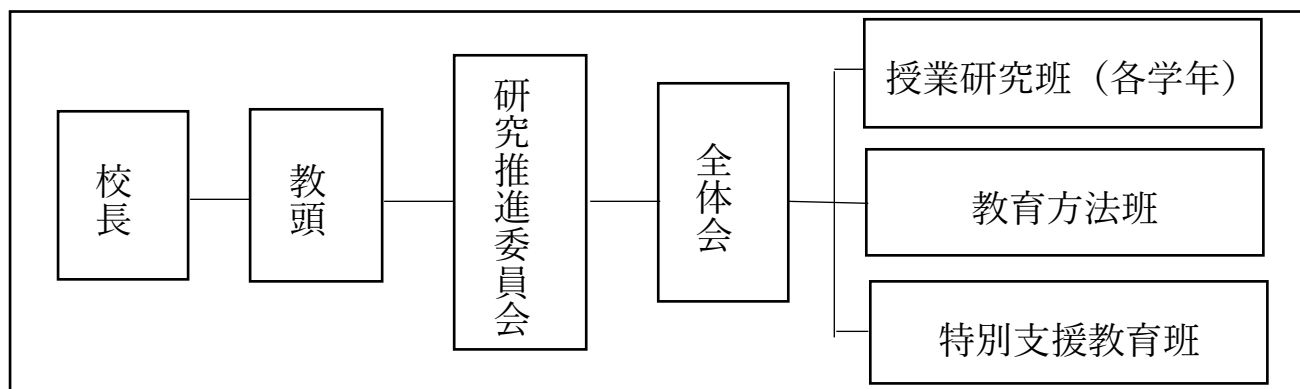
- ① 運動の楽しさや達成感を引き出すことができる授業づくり
- ② 対話をしながら協働して学ぶことができる授業づくり
- ③ 自分のめあてを意識し、学びをつなぐことができる授業づくり

5 研究の進め方

(1) 年間計画について

回	月	日	曜	形態	テーマ研修・学力向上	備考	講師
	4	17	木	研推	○ 年間計画と研究内容の確認		
1	4	21	月	全体	○ 年間計画と研究内容の確認 ○ テーマ研修の計画		
2	5	19	月	全体 班別	○ テーマ研修理論概要確認 ○ 班別活動(内容確認, 計画, 授業者決定)		
	6	13	金	研推	○ 理論及び班別活動の確認		
3	6	16	月	全体 班別	○ 理論確認(主題, 仮説, 研究内容等) ○ 班別活動		
4	夏休み中に 実施予定			全体	○ G I G A ス ク ー ル 関 連 (活用例, 情報モラル)	※ 各研修とテーマ研修を関連付けて実施	
5				全体	○ 体育指導について	※ 体育館での実技研修を予定	○
				研推	○ 指導案検討		
6				全体 班別	○ 研究内容等確認 ○ 班別活動		
7				全体	○ 授業検討①	※ 模擬授業形式での実施を検討	
8	10	6	月	全体	○ 研究授業・授業研究①(下学年)	※ 9月22日(月)により変更を検討	○
	10	14	火	研推	○ 授業振り返り, 指導案検討	※ 職員作業(運動会)の裏で実施を検討	
9	10	20	月	全体	○ 授業検討②	※ 模擬授業形式での実施を検討	
10	11	20	木	全体	○ 研究授業・授業研究②(上学年)	※ 飯牟礼小・伊集院中からの参観有	○
11	1	13	火	全体	○ 班別実践報告		
12	1	26	月	全体	○ 今年度の研修のまとめ		
	2	10	火	研推	○ 次年度の研修計画について		
13	2	19	木	全体	○ 次年度の研修計画		

(2) 研究組織及び研究内容について



組織及び班名	研究及び活動内容
研究推進委員会	実態調査, 理論の構築, 授業研究の進行, 研究評価の実施, 研究成果の発信
授業研究班	検証授業の実施, 指導案作成, 模擬授業の実施, 授業研究の司会, 実践報告等
教育方法班	I C T 活用の提案, 事例の蓄積, 体力・運動能力調査のデータ整理等
特別支援教育班	運動感覚及びコミュニケーションの素地づくりにつながる実践, 支援が必要な児童への教材・用具の工夫, 体育での UD 視点の共有, 実践報告等